

「川上小学校の川上踊」伝承活動の取組

1 学校名 いちき串木野市立川上小学校

2 学 年 全学年（本年度は14人中9人が参加）

3 日時・場所

(1) 練習の場所・日時

川上小学校校庭（8月1日～8月27日 18時～19時30分）

(2) 発表の場所・日時

長田神社・諏訪神社・葛城神社・中組公民館・川上小学校（8月28日）

※例年は6か所で行うが、本年度は諸事情により縮小された。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

川上踊（かわかみおどり）

(2) 由来

川上踊は、今からおよそ100年前（170年または400年前という説がある）、五穀豊穰と平和を祈念して創始されたものと伝えられている。毎年、8月26日を踊りの日と定め、踊り続けられてきたが、太平洋戦争以降から中断していた。その後、昭和39年から毎年8月最後の日曜日を踊りの日とし、復活した。

(3) 構成等

ア 構成員

師匠3人・太鼓14人・鉦4人

イ 演目

1 門係り	2 庭入り	3 庭取り	4 後すぎり	5 荒川
6 チャンチャコ	7 ササラ	8 方セキ	9 高飛び	
10 コ克蘭	11 横飛び	12 四十べ	13 サン鉦	14 楽
15 モッコンコンヌカシ	16 回節	17 入コシ	18 庭崩	
19 ツンテン	20 唄	21 謝礼		

5 保存会や地域との連携の具体

以前は、踊り子を希望する青年が多く、希望者全員が踊れることはなかった。しかし、現在は、川上地区の人口の減少に伴い、踊り子を希望する者も少なくなってきた。

そのため、川上小学校で児童全員参加の文化財少年団を発足させ、川上踊

の伝承活動に取り組みだした。さらに、川上地区公民館審議員会、川上踊保存会（文化財少年団の責任者も属する）が、川上踊の発表・練習等について毎年話し合い、運営に携わっている。

6 文化の伝承・活用の工夫した点

学校と地域が連携して川上踊を伝承していくために、「川上小学校文化財少年団」に全児童が参加し活動を行っている。約4週間の練習をはじめ、自分たちが身に付ける衣装や道具等の装飾作りも活動の中の一つになっている。

学校では、総合的な学習の時間の「ふるさとを伝えよう」という活動の中で地域について学ぶ時間を設けている。川上踊を課題に取り上げ、学習する児童も多い。また、11月の地域が育む「かごしまの教育」県民週間では、高齢者の方とのふれあう活動を行っており、昔の写真等を見ながら、昔の川上地区の様子や川上踊のことを教えていただく時間も設けている。

文化の伝承活動としては、川上踊に限らず、川上棒踊の練習も師匠を招き、総合的な学習の時間を利用して行っている。数年前からは、その成果を運動会で地域の方々の前で発表している。

これらの様子については、学校だより・学級週報・学校ホームページ等を利用して、地域の方や川上地区に関係のある方などに積極的に情報を発信している。

7 取組の様子（練習状況・発表の場等）



大人に混じって発表する子どもたち



華やかな衣装をまとった踊り子



手作りで衣装や道具を作る



諏訪神社での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員の感想・意見

(1) 児童の感想

- ・ はじめは、踊りを覚えたり、たいこを抱えたりするのが大変だったけど、家でお父さんが踊り方を教えてくれたのですごく嬉しかった。
- ・ カネの鳴る音を聞くと毎日の練習が楽しくなってきた。
- ・ 親子で川上踊を踊るといってお父さんの目標を叶えることができた。
- ・ 地域の方がたくさん見ていたので少し緊張したけど、思い切り踊れて気持ちよかった。

(2) 保護者・教職員の感想

- ・ 毎日、がんばって練習する子どもたちの姿を見ることができてよかった。
- ・ 子どもと川上踊を踊ることができて嬉しく感じた。
- ・ 4週間の練習を毎日のように行い、発表した子どもたちに拍手を贈りたい。自分が生まれ育っていく地域のよさを体で体験できたと思う。

(3) 保存会・関係者の感想

- ・ 文化の伝承は地域の絆を強める。昨年度は口蹄疫の関係で実施できなかったのですが、今年は踊ることができて本当によかったと思う。
- ・ 今年は、たくさん子どもたちが練習に参加していた。子どもたちのがんばる姿に感動した。
- ・ ここ数年間、踊り子不足の状態が続いている。また、運営の仕方についても様々な意見が出ている。良案を検討しながら、今後も継続していきたい。